

令和5年度地震・津波防災訓練 (内閣府・北海道釧路町)

実施報告書 (概要版)

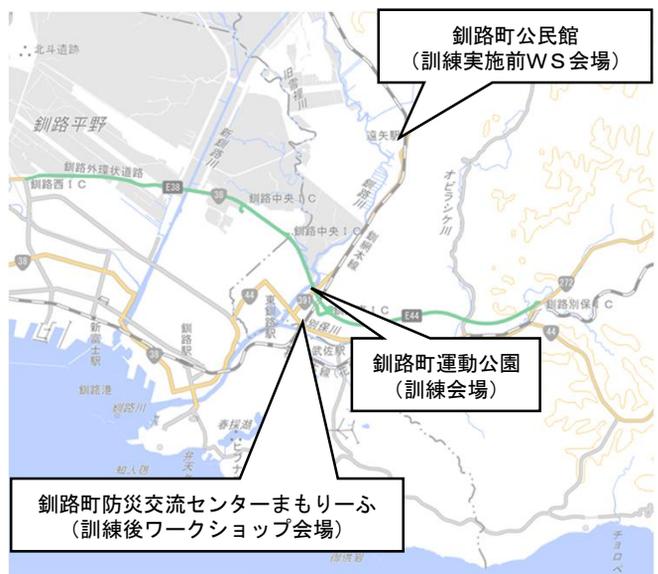
北海道釧路町について

北海道の南東部に位置する釧路町は、総面積の約80%が山間地帯で、残りの20%が釧路平原および泥炭地から成り立っている。南東部の海岸線は、国定公園に指定されており、集落が点在している。北西部は釧路湿原に接しており、丘陵台地の麓に沿うように流れる釧路川流域沿いに市街地形成されている。中央部は大部分が丘陵台地であり、別保川、オビラシケ川流域に市街地が形成されている。

釧路沖は、地震活動が活発でこれまでにM7クラスの地震が多数発生し、地震・津波による被害を及ぼしてきた。

今後想定される千島海溝沿いの巨大地震では、道内で最も高いと予想される最大26.5メートルの津波が押し寄せる可能性がある。このようなリスクに備え、釧路川に近い市街地には、約1,600人が避難できる津波避難タワーを4基建設する計画が進行中である。

町は、防災関係機関、地域の自主防災組織等と協力し、防災教育及び避難意識向上のための啓発を行い、津波に対する防災意識の向上を図っている。



出典：国土地理院

訓練概要

- 訓練想定：令和5年10月14日（土）午前9時、十勝沖を震源とするマグニチュード8超の地震が発生、北海道釧路町において最大震度6強を観測、大津波警報が発令されるという想定のもと訓練を実施した。
- 実施日時：【訓練実施前WS】 令和5年9月23日（土）13:00～15:30
【地震・津波防災訓練】 令和5年10月14日（土）09:00～13:00
【訓練実施後WS】 令和5年11月29日（水）18:00～19:30
- 主催：北海道釧路町、内閣府
- 参加者数：325名
- 参加機関：町内全域の自治会、自主防災組織等、北海道釧路総合振興局、釧路警察署、釧路消防署、陸上自衛隊
- 訓練項目：シェイクアウト訓練、津波避難訓練、避難所開設訓練、福祉避難所輸送訓練等
- 訓練の特色：津波避難訓練に続いて、関係機関の展示、各種訓練の実施。

訓練の成果

【成果】

○国、気象庁と連携して企画し、自衛隊、消防署、警察署等諸団体の協力で訓練を開催した。各種機関と連携し避難訓練後に、イベント的な各種訓練を実施、体験、見学することで、防災意識への向上に寄与するものと期待される。

○訓練実施前ワークショップでは、被災体験講話として東日本大震災の被災地の方からの講演、地元中学生による防災小説の発表等を通じ、津波被害に対する危機意識を持つことができた。

○避難訓練時に、避難者が自宅で用意している避難袋を持参、靴、服装を装備して避難する等、避難意識が高い様子が見られた。

【課題】

●最悪の想定、夜中の対応、初期行動等の検討が必要である。季節、発生時間により行動が変わるので、専門家の方の意見を伺いながらすすめる必要がある。

●実際の災害時には、消防や自衛隊もすぐには救助に来られないことや、行政職員の被災も考えられるため、住民が自分で命を守る行動をとることが大事になる。

●広域災害に備え各関係機関と連携した訓練を継続していく実施していく必要がある。

9月23日（土）13:00～15:30 訓練実施前ワークショップ

- 被災体験講話として東日本大震災の被災地の方からの講演、地元中学校の生徒による防災小説の発表を行った後、防災パネルディスカッションを行った。
- 日本海溝・千島海溝周辺海溝型地震後発地震情報に関する情報提供を行い、地震津波防災について理解を深めた。

▼総括アドバイス
（北海道大学 谷岡特任教授）



▼パネルディスカッションの様子



10月14日（土）09:00～13:00 地震・津波避難訓練

- 10月14日（土）午前9時に巨大地震が発生し巨大津波が襲来する想定の下、セチリ太地区内でシェイクアウト訓練、津波避難訓練及び避難所開設訓練等を行った。
- メイン会場の釧路町運動公園、釧路町総合体育館では、段ボールベッドの組み立て練習、避難所体験訓練、各種パネル展示等を行い、最後に訓練の振り返りを行った。

▼避難訓練



▼要支援者避難訓練



▼津波実験装置体験
（屋内展示）



▼炊き出し訓練



▼振り返り



11月29日（水）18:00～19:30 訓練実施後ワークショップ

- 地震・津波防災訓練の振り返り、アドバイザーの先生による釧路町での防災訓練の講話を行ったあと、防災学習ツールを用い、グループ毎にシミュレーションゲームを行った。特に津波避難に関する現状の問題点や大事な点等について、認識の共有を図った。

▼ワークショップの様子

